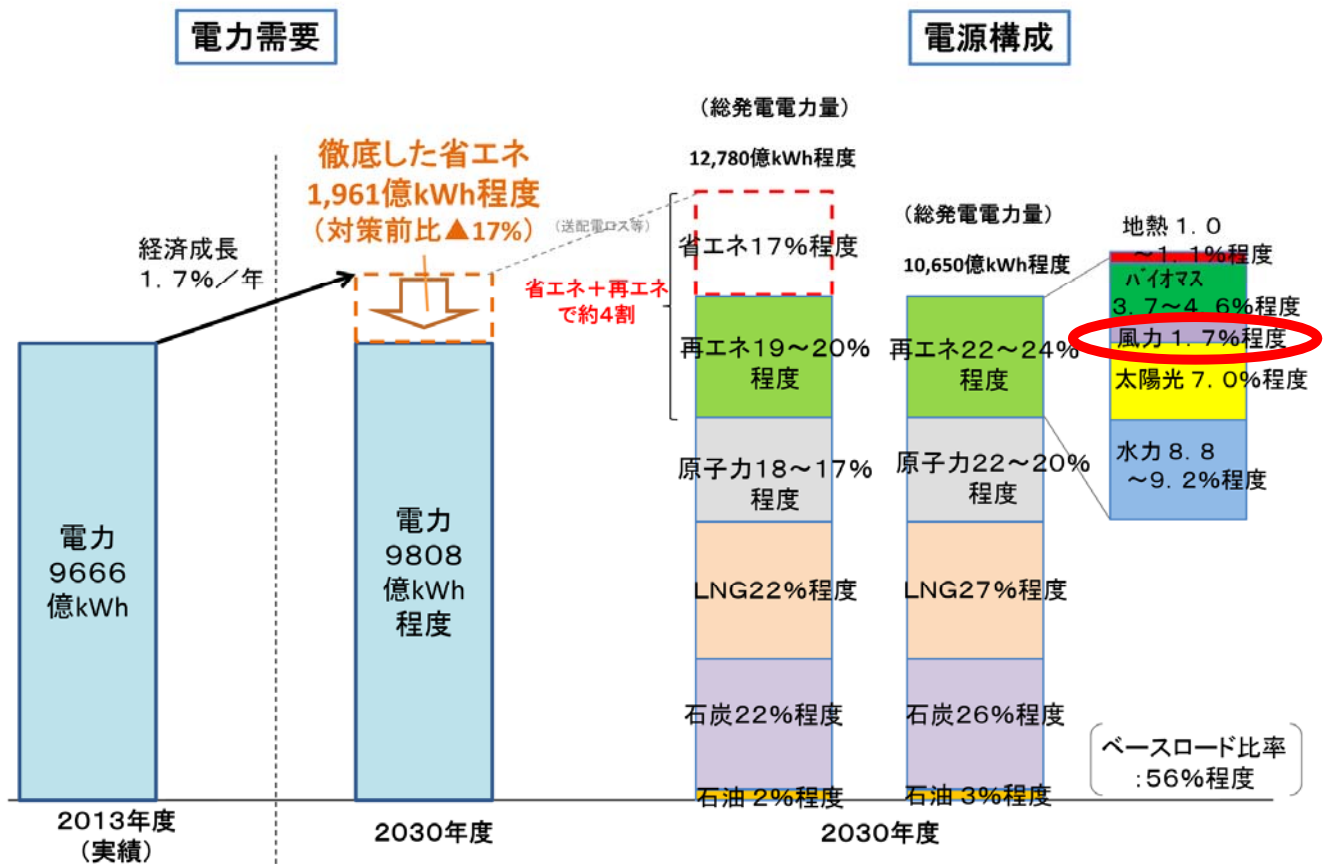


風力発電等に係るゾーニング 導入可能性検討モデル事業

平成29年3月24日
環境省環境影響評価課 課長補佐
井上直己

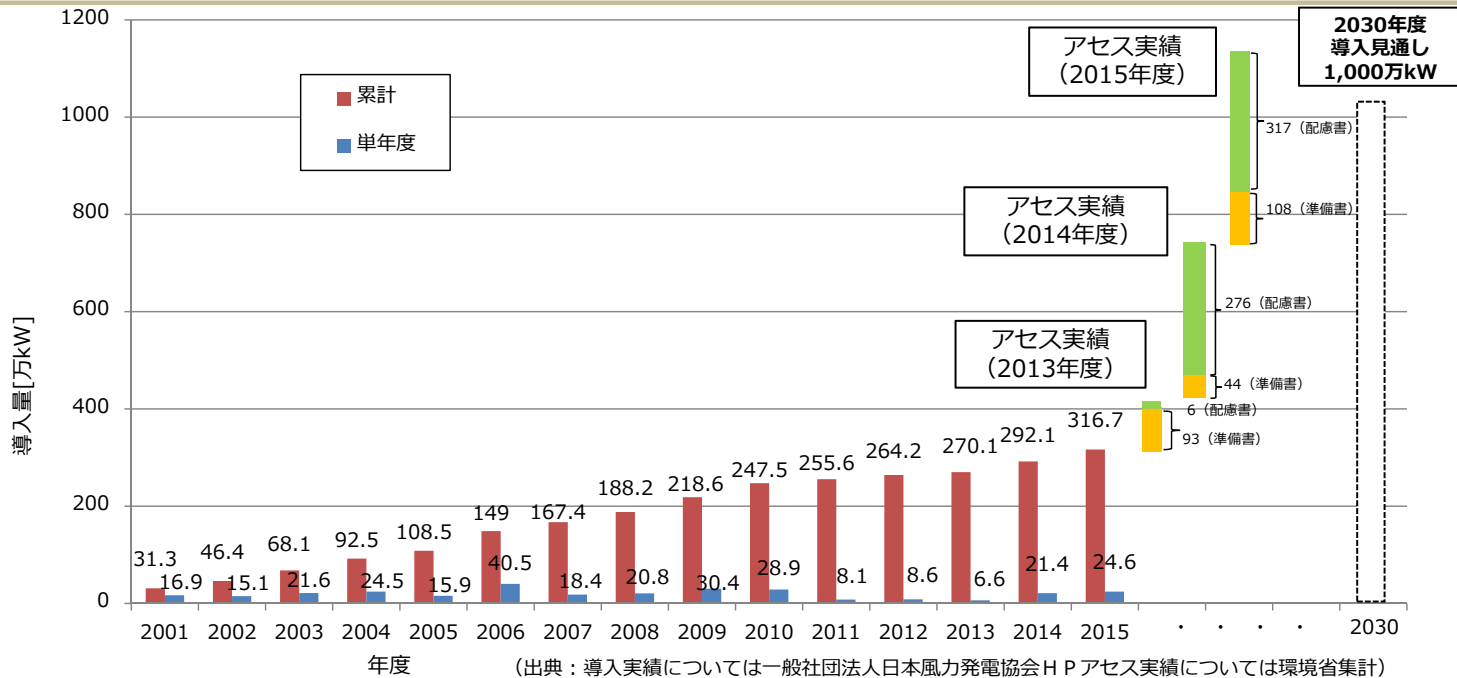
2030年度目標とエネルギーミックス（平成27年7月） における電力需要・電力構成



（出典：長期エネルギー需給見通し関連資料、平成27年6月資源エネルギー庁）

風力発電の導入状況

- エネルギーミックス（平成27年7月）における2030年度の風力発電導入見通しは設備容量ベースで1,000万kW（陸上918万kW、洋上82万kW）
- 導入済みの約320万kWに環境アセスメントが完了・実施中の約820万kWの合計は約1,140万kW（環境アセスメントの手続き等の過程で、事業の規模等については変更される可能性あり）
- 地球温暖化対策の選択肢として示された対策・施策（高位ケース）では、2030年度における風力発電の導入目標量は3,250万kW（洋上880万kW）（「2013年以降の対策・施策に関する報告書」2012年6月、中環審地球環境部会）

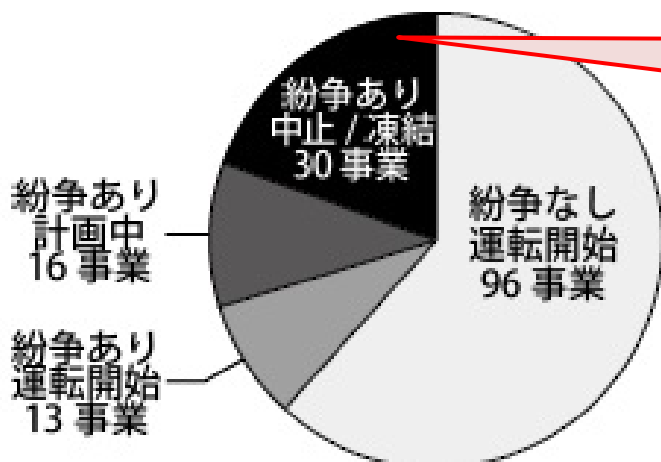


2

風力発電所の設置による主な環境影響と環境紛争

- 風力発電所立地では、地域住民等から反対を受ける「環境紛争」が発生しうる
- 環境紛争が起こる主な論点は、野鳥への影響、騒音、景観への影響など
- 過去に環境紛争が起きたことがある地域では、別の風力事業が計画された場合も環境紛争が起きやすいという報告もあり、風力発電の導入促進のためには、地元関係者等との綿密な事前調整により、紛争化を未然に防止することが重要

＜風力発電所の立地に当たっての環境紛争発生状況＞



155件の事業のうち約4割（59件）で環境紛争が発生（2012年11月末日までの状況）

＜風力発電所の立地に当たっての環境紛争の主な論点＞

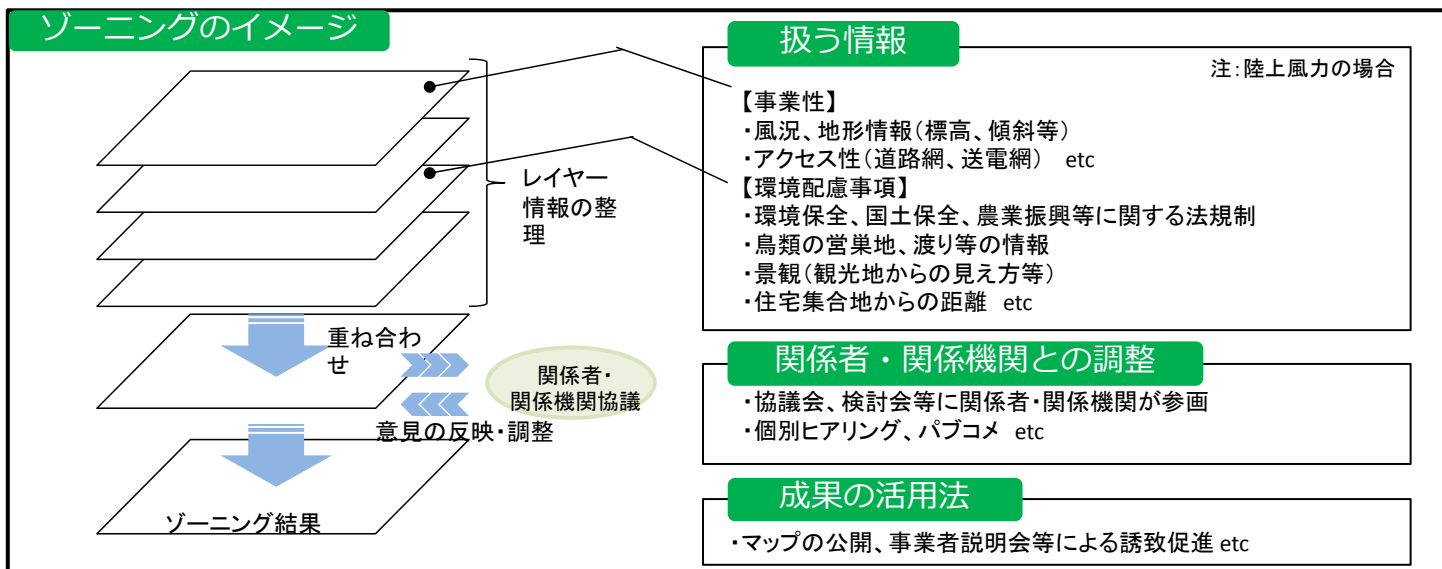
| n=59 | 騒音/低周波 | 災害/水質 | 景観 | 自然 | 野鳥 | シャドーフリー | その他 |
|------|--------|-------|-----|-----|-----|---------|-----|
| 事業数 | 28 | 17 | 19 | 20 | 35 | 0 | 4 |
| 割合 | 48% | 29% | 33% | 34% | 60% | 0% | 7% |

（出典）風力発電事業の計画段階における環境紛争の発生要因（2014年）（エネルギー・資源学会誌vol.35）

3

風力発電等におけるゾーニング

- 風力発電の立地適地をめくり事業計画の集中が見られる等、環境面の累積的影響の事前考慮が必要
- 地域（地方公共団体）において、環境面だけでなく経済面、社会面も統合的に評価して、再生可能エネルギー導入を促進すべきエリア、環境保全を優先すべきエリア等のゾーニングを行う
- ゾーニングを踏まえた環境アセスメントの手続が円滑に進められることにより、審査期間を短縮するとともに、地域の自然的・社会的条件を踏まえた再生可能エネルギーの計画的な導入を促進



4

平成28年度モデル事業 対象地域

- 地方公共団体において、環境面だけでなく経済面、社会面も統合的に評価して、再生可能エネルギー導入を促進すべきエリア、環境保全を優先すべきエリア等の設定などを行うゾーニング手法について検討を開始
- 実際の地域においてゾーニングを実践するモデル地域を4地域選定（平成28年度～）

○申請者
(共同提案者)



質が高く効率的な環境アセスメントを推進し、環境保全と再エネ導入促進の両立を図る

5